



上川井だより

12月号

令和4年11月30日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

知りたい やりたい 伝えたいを形に

校長 山崎 真紀子

師走に入り、寒さが一段と厳しくなってきましたが、子どもたちは寒さをものともせず、元気よく鬼ごっこやドッジボールを楽しんでいます。

11月は、校外学習や異校種交流などの学校行事が目白押しでした。そうした中、子どもたちも時間をやりくりしながら準備を進め、3年ぶりに上小フェスティバルを開催することができました。お忙しい中、ご参観いただきありがとうございます。

低学年は、どの学年も国語で学習した物語を自分たちでアレンジして発表しました。登場人物の気持ちを声や身振りで表現したり、自分たちでセリフを付け加えたりして、物語の世界を表しました。「ここは、がっかりしているから下を向いて悲しそうな声で読むね。」「ここは、待ち遠しい感じが伝わるように大きく動いてみよう。」「空の上を散歩出来たらまちはどんな風に見えるかな。」「セリフだけじゃなくて、歌も入れようよ。」「背景の絵も用意しよう。雰囲気伝わるよね。」どの学年も、観る人に楽しんでもらおうと自分たちで意見を出し合って準備を進めていました。

4・5年生は、社会科や総合的な学習で学んできたことの中から、6年生は、難しい古典文学に挑戦しました。伝えたいことを絞り、どんな形で伝えれば観る人に関心を持ってもらえるか考え、発表形式にも工夫を凝らしていました。内容、形式、時間配分、大道具や小道具の準備から使う言葉に至るまで話し合いを重ね、1年生から大人まで楽しめる演目に仕上げるのは、簡単ではなかったと思います。その分、「みんなで協力しあえば、難しいこともやり遂げられることが分かった。」「みんなで意見を出し合って一つの形にしていくのは、とても楽しい。」と、充実感や達成感も大きかったようです。時間に追われることもあったように思いますが、どの子どももいきいきと過ごせていたことが印象的です。また、全員が自分の役割やセリフをもち、堂々と発表できていたことも大きな自信につながったと思います。今年の上川井小の目標である「知りたい、やりたい、伝えたい」がたくさん詰まったフェスティバルとなりました。互いの発表を見合い、次年度の目標をもった子もいると思います。豊かに想像が花開き、心満ちた時間を子どもたちとともに味わうことができました。この日に向け取り組んだ姿を大切に、今後の学びも充実させていきたいと思っています。